

手紙・メールの部

① 小学生の部

最優秀賞

愛知県 庄田 美有さん 小学1年

かんしゃじょう

ばあちゃんへ。
ママが、おしごとだから、いつもいっしょにるすばんしてくれて、ありがとう。
ばあちゃんがいるから、ぜんぜんさみしくないよ。
ママのかわりに、「おかえり」いって来て、ありがとう。
いつでもげんかんまできてくれて、うれしいです。
わからないしゅくだいを、やさしくおしえてくれてありがとう。
100てんたくさんとれました。
あったかいごはんを、つくってくれてありがとう。
なんでもおいしくて、おりょうりのてんさいです。
ばあちゃんへ、いろんなありがとうが、たくさんありますので、
ありがとうのきもちをぎゅっとつめて、かんしゃじょうをおくります。

審査員のコメント ●おばあちゃんへの感謝状。たくさんの愛情をもらった感謝を「ぎゅっとつめて」贈る。祖母も喜ぶに違いない。組み立ても工夫されている。(内田先生) ●ありがとうのきもちがぎゅっとつまったかんしゃじょう、ばあちゃんきつとよろこぶよ!(松田先生) ●祖母と小一の孫のかかわりが具体的に表現できている。とりわけ、結びの一文が二人の絆を深めている。(明石先生) ●ありがとうの感謝の気持ちをぎゅっとつめてのおばあちゃんへの“感謝状”。その発想がいじらしく、私も両方抱きしめたいです。(橋本先生)

優秀賞

東京都 金子 和矢さん 小学2年

ひいおばあちゃんへ

ひいおばあちゃん、百二才のおたん生日おめでとうございます。ぼくはへいせい十五年に生まれたので、明治、大正、昭和の時代は知りません。お母さんの話しを聞いたり、本をよんだりして日本でせんそうがあったことを知りました。ひいおばあちゃんがせんそうでこわい思いをして、しょくりょうがなくておなかがすいてかわいそうだと思いました。ひいおばあちゃんが百二年間も生きぬいて、ぼくはとてもすごいと思いました。

ぼくはひいおばあちゃんとおじいちゃんとおばあちゃんとお母さんといとことマザーぼくじょうにりよ行したのが楽しかったです。

ぼくはひいおばあちゃんとお話しをしたのも楽しかったです。

ひいおばあちゃんは自分で食じができたのに、二月にけいれんをおこしてぼくはとても心ばいになりました。ぼくはかngoしのお母さんと一しょにひいお

ばあちゃんのおうちに行きました。ぼくはひいおばあちゃんがうごけなくなってかわいそうだと思いました。おばあちゃんとお母さんが、ひいおばあちゃんのかんびょうしているところをみていました。お母さんがひいおばあちゃんにプリンを食べさせていたので、ぼくはお母さんに

「ぼくもやりたい。」

と言いました。ぼくのお母さんはかngoしだから、ぼくに食べさせかたを教えてくださいました。ぼくはひいおばあちゃんがプリンを食べてくれたので、うれしかったです。お母さんはぼくに、ひいおばあちゃんのきがえと体をきれいにふくことも教えてくださいました。ひいおばあちゃん、きもちよかったですか?

ぼくはひいおばあちゃんが大きいです。ぼくはひいおばあちゃんももっと元気になってほしいです。ぼくは医者になってひいおばあちゃんを助けたいです。ひいおばあちゃん、長く生きてくれてありがとう。

① 小学生の部

優秀賞

広島県 大藤 凧紗さん 小学5年

おいしい昼ごはん

夏休みに入って、お母さんはいつも、仕事のお昼休みに家に帰って来ます。仕事でがんばっているから、わたしもがんばって、お母さんのためにお昼ごはんを作りました。何を作ったかという、「ざるそば」です。いつも暑い中、帰ってくるから、冷たい方がいいと思ったので、そばを冷したり、つけつゆや、お茶をコップに入れて冷やしたりしました。それでお母さんが帰って来ると、「なあちゃんすごい。ありがとう、冷やしてくれているからさらに、おいしいようれしい。」と言ってくれました。わたしは、とてもうれしくなりました。お手伝いをして、よかったです。ほめられたくて、もっともお伝いをしたいと思いました。家族のために、これからもがんばってお手伝いをしていきたいです。「ありがとう、助かる。」といわれると、むねがうれしくてたまりません。

審査員のコメント ● 仲がよく、互いを思いやる家族の日常の様子が生き生きと感じられる作品である。(坂元先生)

優秀賞

大阪府 村山 倅さん 小学3年

「家族がいっしょにいられること」

いつも元気な弟がとつぜん高熱を出しました。何日も続いたある日、祖父と祖母が学校に私をむかえにきました。私はとても不安になりました。祖母から、弟が入院したこと、私と父は祖父の家でくらすことを聞きました。

母とは毎日少しだけ電話で話しました。さみしかったけれど、弟のために私もがんばろうと思いました。

弟の退院が決まって、父と二人で病院にむかえに行く時、うれしくて、早く会いたくて、胸がドキドキしました。病室につくと、母が「よくがんばったね。ありがとう。」と、ギューツとだっこしてくれました。心の中がやさしい気持ちでいっぱいになりました。

弟とけんかして、母におこられることもあるけれど、家族が元気で、いっしょにいられるということはすごく幸せなことだとかんじています。

① 小学生の部

優秀賞

兵庫県 菊岡 瑤子さん 小学6年

赤ちゃん

友だちの妹を
だかせてもらったことがある
でも もうじき
とつてもちっちゃい
いとこがうまれてくる
その子は
はやく見たいなあ
まだ名前も決まっていない
赤ちゃんだった
男の子かなあ
女の子かなあ
ちっちゃくてかわいいなあ
女の子だといいなあ
私にも
とにかく
こんな妹ができたらなあ
ぶじにうまれてきてね



優秀賞

北海道 本間 百詠さん 小学2年

「ありがとう」はまほうのことば

私の宝物は、「家ぞく」。いっしょにいと、ほっとする。ちよっぴりおこりんぼうのお父さん、やさしいけれどよくないことにはきびしいお母さん。全て百点まん点ではないけれど、みんながみんなのことを考えてくらししている。たまには、間ちがえたり、けんかしたりすることもあるけれど、「ありがとう」と思ってる。てれくさくて、あまりたくさんは言えないけれど、とつてもすてきなことば。毎日、心の中で伝えているよ。

「ありがとう」はまほうのことば。聞いた人みんなをえがおにかえて、元気にさせる。あつたかいおばあちゃんの口ぐせでもある。この大好きなことばを、これからはゆう気をもって言いたい。大きな声といいかおで、「ありがとう」って。



審査員のコメント ●家族が宝物…今回の大震災でもくりかえし聞かれたその絆の原点が、魔法のことば「ありがとう」からですね！（橋本先生）

② 中・高校生の部

最優秀賞

富山県 鷲尾 耀さん 中学3年

俺んちの母さん

「ひかるー!ガンバレ——。」

試合になったらいつもそう聞こえます。その時は、少し嫌だなと思うけれどその言葉で何本かいいプレーができます。

朝早くからのそうげい当番。いつも平気な顔して送ってくれるけどとても大変なのにといつも思います。そして弁当は、どの人の弁当よりも試合でもっていく俺の弁当が一番輝いているように思います。

勉強やサッカーでもダメだったらしっかりアドバイスしてくれたり、時には怒ったりと嫌だと思ふ時は、あるけれど、

「俺の為に言ってくれてるんだ。ありがたいな……。」

と思います。

次男だけど長男と同じくらい一生懸命接してくれて素直に嬉しいです。母子家庭だけど何不自由なくしてくれる母さんを見ると涙が出そうになります。本当にありがとう。

審査員のコメント ●母子家庭に育った息子からの母親への感謝状。こころがこもっていて読む者の心を打つ作品。構成も巧みで素晴らしい。(内田先生)

優秀賞

岐阜県 森 彩香さん 高校1年

大嫌いで大好きなお母さんへ

「ありがとう」が素直に言えなくて
いつも悲しませてばかり。

「大嫌い」なんて嘘。「大好き」だよ。
「ほっといて」じゃない、伝えたいのは
「気にかけてくれてありがとう」

新しい生活を迎え不安になって、
毎日泣いてる私に
「あんたが馬鹿でもさ、あたしは大好きだから。
もっと自分に自信持ちな。
あんたなら、大丈夫だから。」

そう言って涙でぐちゃぐちゃの私を抱きしめて
くれて…

照れくさいけど、今元気に学校へ行けるのはお母
さんのおかげです。

今なら素直に伝えられそうなんです。

言葉だけでは伝えきれないたくさんたくさんの
「ありがとう」と「大好き」を
ここに送ります。

審査員のコメント ●思春期の親子関係をうまく表現している。手紙の持つ力を考えさせる文である。文字の力強さを再認識させる。(明石先生)

② 中・高校生の部

優秀賞

群馬県 佐藤 大介さん 高校1年

親父へ

最初に言うと、俺は親父が嫌いだ。仕事があるから仕方無いのか、小さい頃から余り喋らなかつた。でも妹達にはベタベタで、俺はそれが気に入らなかつた。そのせいか、俺は次第に親父に嫌われてると考える様になり、何をすることも親父の顔色ばかりを伺う様になった。

その内、周りからの重圧もあり、俺は学校へ行かなくなった。最初は皆、俺に対して怒る事を続けた。しかし、しばらくそれを続けたら、なぜか皆優しく接する様になり、俺は心が痛くなり、家族と目を合わせるのもつらかつた。その内、一人で考え込む事が多くなり、そのたびに自分がなんの為に存在するのか分からなくなり、追いつめられるとこまで追いつめられていた。

でも、そんな俺を救ってくれたのは、お父さんだ。他の家族が優しくするのに、お父さんだけは、怒ってくれた。不思議な事に、あれだけ怒られるのが嫌だつた俺を、怒ることで救ってくれた。落ち着いてきた頃には話も聞いてくれた。

今、俺は学校に通っている。不器用で優しい親父のおかげで…。

審査員のコメント ●親父の存在が薄れた今、不登校で追いつめられた中で叱り続けてくれた不器用でやさしい親父への素直な気持ちが伝わり感動です。(橋本先生)

優秀賞

宮城県 渋谷 佳樹さん 中学3年

僕はこの母の子どもである

「うざったい」「うるさい」「干渉するな」母と顔を合わせると、最近はこんな言葉が口に出る。保育所に通っていた頃は、家に帰ってくると、まずは「お母さん、どこ」と、ただいまより先に叫んでいた。でも、そんな私も中学三年生。私は病気で運動制限もあり、特別支援学級の病弱学級で一人で学習している。

ある時、私が「何で僕だけこんな病気になったんだろうね」とつぶやくように母にたずねる。母は「ごめんね」とただ下を向いていた。

この間の大地震の折、「大丈夫、けがしなかつた」と僕にかけよつた母の目には大粒の涙があふれていた。自分一人でここまで大きくなってきた訳ではない。周りのみんなにいっぱい心配をかけ、そして、支えられて生きてきた。これからもそうだろう。母には特に一生そうであろう。そして、私を産んでくれて育ててくれたのは、この母一人であるから。

② 中・高校生の部

優秀賞

群馬県 木檜 光平さん 中学3年

僕と母の二年半

平成23年8月11日千葉ポートアリーナ、僕の夏が終わった。いや、僕と母の長く暑い夏が終わったのだった。

中学の部活に選んだ剣道。運動が苦手な僕に母は入部を反対した。しかしその反対を押し切り僕は自分の意思で入部を決めた。それだけに絶対に弱音は吐きまいと意気込んでいた。しかし想像以上に稽古は厳しく毎日ヘトヘトで帰宅し毎晩食べて寝るだけの生活となってしまった。

そんな僕を支えてくれたのはあれだけ入部を反対した母だった。消化や栄養を考えた毎日の食事の支度は勿論、気持ちが引き締まるだろうからと洗濯の度に夜中でも面タオルと袴にアイロンをかけてくれた。「他力本願だけど」と笑いながら試合会場に塩を撒き拌んでくれた。

そんな母と二人三脚の二年半、時に学生の本分を忘れながらも僕は剣道に集中した。そして迎えた三年生の夏、集大成として念願の関東大会出場を果たした僕に母はこう言った。「関東大会に連れて来てくれてありがとう」と。

僕のほうこそありがとう。そしてこれからもよろしく。母の支えを思い知った今年の夏、僕は少し大人になったのかもしれない。

優秀賞

宮城県 鈴木 美紀さん 中学1年

愛しい妹へ

愛しい妹よ、私たちは君が大好きだよ。君だって私たちに会いたくて、生まれてきたんだよね。どうであらうと君は君。偏見なんて何のその。言葉足らずでも大丈夫。君は今を生きている。ゆっくり静かに歩めばいいよ。

君と巡り会えた運命を、ふとした瞬間考えるんだ。君はみんなに愛されたくて、いつも笑顔でいるのかな。みんなちがってみんないい。差別なんかくそ食らえ。ありのままを受け入れる。君の全てを包み込む。君は君なりに頑張っている。心置きなくさらせばいいよ。

君の息吹とぬくもりを、これからもずっと忘れない。君は人の心を結ぶようにと、神が授けてくれたのかな。どんな時でも私は私。冷たい視線に動じない。何があっても支えていく。何が何でも守っていく。君がいるだけで温かい。心配しないで生きてほしいよ。

ねえ、君。姉ちゃん、兄ちゃん、私の妹として生まれてくれてありがとう。いつまでも四人で仲良くしていこうね。

③ 一般の部

最優秀賞

神奈川県 松澤 貴之さん 会社員 44歳

「上司へ」

初めての育児に精神的に不安定になる妻。初めて腕に抱く赤ん坊の世話に家事に仕事。育児の孤独さ、思い通りにいかないジレンマ、愛情と反したストレス。

自分でも気付かないうちに限界を乗り越えていた。

そんな時、育児休暇制度を薦めてくれたのが会社の上司。あの時、背中を押してくれて有り難う。

育児休暇を取って子育てに専念してみても、周囲のサポートなしに子育ては出来ないと身を持って実感し、母親のすごさも体感した。

半年間、妻と子育てを共有した事で、妻との信頼関係と絆は間違いなく深まり、彼女から私は育児について一目置かれる存在にさえなっています。

育児休暇を取らせていただいた事で、その時にしか体験出来ない多くの貴重な経験が出来たのは、あの時背中を押してくれた上司のお陰です。

あの時の言葉が困難に立ち向かう力になり、あの時の経験が今の自分自身の糧となっている事は言うまでもありません。

本当に、有り難うございました。

審査員のコメント ●親父としての育児体験を通しての絆の目覚めを社会全体に啓蒙したい貴重な訴えです。何よりも上司に乾杯です！（橋本先生）

優秀賞

千葉県 赤松 沙織さん 主婦 31歳

「はい、あめちゃん。」

この日、近所の踏切の音を聞きながら、実家へ帰りたいと初めて思っていました。自分のやり方が悪いのか。自問自答をしていました。

娘があやしても泣き止まず、夜勤明けで体を休めていた夫に「うるさい！」と言われてしまいました。普段は、言いません。でも、狭い部屋の中にもうるさいだけ、よちよち歩く娘と外へ出ていました。

娘に「はい、あめちゃん。」と初老のご婦人が話しかけて下さいました。次に「つつい子どもを見ると声をかけちゃうのよ。今が一番大変な時よね。」と言って、私にもあめ玉を渡してくれました。「今が一番大変」と言って私を認めてくれた一言と共に、お腹から力が湧いてきました。

どうか先輩方、私たち子育て中の母親に、どんどん声をかけて下さい。迷惑などと思ったりしていません。その一言で、どれだけ気持ちが楽になるでしょうか。

どうか子育て中のママたち、家の中に籠らずに外に出かけてみましょう。外には、子供の笑顔と素敵な出会いがありますよ。

③ 一般の部

優秀賞

茨城県 進藤 道子さん 主婦 34歳

ごめんね。ありがとう。

「おーい、うんちしてるぞー」と、あなたに呼ばれて、ようやく洗濯物を干し終わって駆け付けたら、ああ、やっぱり大惨事。

そんな時、つい出てしまった一言、「あなたに頼んだ私がバカだった」。

下の子が生まれてからというもの、すっかり余裕がなくなって、あなたに対して出てくるのは、いつも冷たい言葉ばかりだね。

一日が終わるとどっぷり疲れて、子どもと一緒に寝てしまう日々。

早く出て遅く帰ってくるあなたには、耳かきさえも長いことしてあげてないよね。

若い頃は自慢だったおっばいも、完全母乳育児のせいですっかり垂れ下がり、お化粧品も滅多にしなくなったけど、私のこと、まだ変わらず好きですか。

休みの日には、ポッポ〜と遊んでくれるトッチャンが、子どもたちは大好きです。トイレ掃除から庭の草取りまで、あなたが一手にひきうけてくれていること、感謝しています。

だから今日は素直にありがとう。好きです。あなたがいるから頑張れます。

審査員のコメント ●最後の「好きです」にまいりました。親になっても、こんなラブレターを贈れるあなたがとても素敵です。(松田先生)

優秀賞

秋田県 篠田 健三さん 74歳

元気をくれる孫たちへ

「あっちゃん」や「ほっちゃん」の小さいときのこと教えてあげる。あなたたちが、産まれて間もなく保育園へ通ったときのことだよ。

それはね、じいさんとばあさんが毎朝あなたたちを自転車に乗せて連れて行ったんだ。迎えに行くと、じいさーん、ばあさーんと叫び、バンザイをしながら私たちの胸に飛び込んでくる。

うれしくて、胸いっぱいになり、涙を流したこともあったよ。

沢山の元気をもらったよ、ありがとうー。

あれから10年、あっちゃんも、ほっちゃんも小学生。

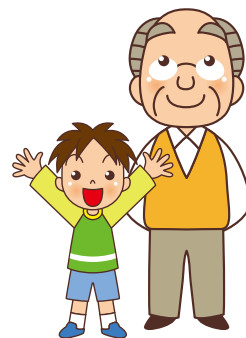
4月から5、6年生のソフト部に入ったんだってー。

こんど、じいさんとキャッチボールをしようね。

試合があるときは教えてね。ばあさんと応援に行くよ。

あっちゃん、ほっちゃんのこれからの成長を楽しみにしている。

じいさんも、ばあさんも、まだまだがんばるから……。



③ 一般の部

優秀賞

東京都 金子 珠代さん 主婦 36歳

4人で!

6月9日、あなたはお姉ちゃんになりました。ママはあの日のあなたのことを、きっとずっと忘れないと思います。

おばあちゃんのお家へ預けられることになったあなたは、起きてすぐにお出かけができる分、あ、あーちゃんも行くーと言ってパパと出て行ってしまいました。嬉しそうに、こちらを振り返ることもなく。ママとはしばらく会えないことも知らずに。

でもあなたは寂しさを少しも見せず、元気に過ごしていたそうですね。小さくて頼りなかったあなたが急に大きく見えましたよ。

あれから3カ月。2歳になったあなたは、優しくてももしろいお姉ちゃんになりました。4人家族になったことも理解し、いつも4人で行こうねって言ってくれます。ママはその度に、なぜかあの日パジャマのまま嬉しそうに出て行ってしまったあなたの後ろ姿を思い出します。

あれがあなたのお姉ちゃんへの第一歩だったのですね。これからはあなたの言う通り、4人で、を大切にしていきたいと思います。お姉ちゃん、ありがとう。

